

第59回 民放労連全国女性のつどいin東京

女性だけじゃない!! 誰もが「自分らしく」生きるために私たちができること

2023年11月11日(土) 東京・水道橋にて、コロナ禍以降、三年ぶりとなるリアルとリモートのハイブリッド開催で「第五十九回 民放労連全国女性のつどいin東京」が開催されました。

リモート参加も含めて、全国から集まった参加者は八二名となり、今回のテーマである「女性だけでなく誰もが『自分らしく』生きるために私たちができること」のテーマ通り、更に



伊東紀子実行委員長の挨拶



女性協定期大会も同時開催



に渡る課題を、女性だけでなく多様な構成メンバーで

話し合い、活動を進めるべきとの問題提起が行われたのです。

新たな名称は、今後多くの声や意見を聞きながら、分かりやすく、耳に馴染む名前を模索していくこととなります。一周回って「変更なし」となるかも知れませんが、今、話し合うことに意味があるのでしよう。

水道橋のシンカポール料理店で行われた交流会では、それぞれの単組が

女性議員が増えない国で

講師 溝上 由夏さん

分科会①は、テレビ朝日の溝上由夏さんに「女性議員が増えない国で」と題し



番組制作の裏話など...

た伊藤孝恵参議院議員、政治家を志す大学生と三世代の女性たちを明るく前向きに描く一方で、日本の政界の圧倒的な「男女格差」や、それが女性の政治参加を阻んでいる実態を描いて

基調講演

みずみずしい感性を 持ち続ける秘訣とは？

講師 北川 悦吏子さん

基調講演は脚本家の北川悦吏子さんに「みずみずしい感性を持ち続ける秘訣とは？」をテーマにお話いただきました。講演会はテレビ東京の狩野恵里さんと北川さんへの講演を企画し実現させたテレビ埼玉の古川結雪さんが登壇し、トーク

つたお話等を伺い、当時の勢いのある華やかな情勢を伺えました。そして今につながる時代の変化の中でも常に大切にしていることとして『突破力』と『自身の核となるものを持ち続けること』を教えるもらいました。

前者の『突破力』に関しては、北川さんが関わったドラマだけでなく、すべてのクリエイティブなものに関して、時には今の状況・条件・上司・関係するクライアント等に流されずに自分が思うこれだ!というものを貫き示し続け突破し

後者の『自身の核となるものを持ち続けること』に関して興味深かったエピソードは、ドラマの主題歌の歌詞にも必ずこだわりを持つことです。一つひとつの言葉に意味を持たせ、生かすことで作品とリンクし相乗させるのだと思いました。北川さんの代表作のほとんどの主題歌が、作品と並行してヒット曲となっている理由を伺うことができました。

約一時間半の講演会で終始私たちにはじけるような



笑い声が絶えない楽しい講演に

分科会②

好きなことをとことん! 気づいたら漫画家になっていました

講師 真船 佳奈さん

分科会②「好きなことをとことん! 気づいたら漫画家になっていました」では、テレビ東京マーケティング局プロモーション部の真船佳奈さんを講師に迎え、司会を真船さんの先輩でもある、テレビ東京・狩野恵里アナウンサー。お二人が対談する形式で、出産・子育て、さらには副業についてお話いただきました。



漫画家としてもご活躍!

真船さんが今年発売した漫画『令和妊婦、孤高のさけび! 頼りになるのはス

やいけないの?』という一人の女性の声です。陣痛も子育ても、痛くてしんどくて寝不足なのに、「みんな通ってきた道だから」とい

う(言っている側にあっては)励ましの「優しい声がけ」によって、「助けてほしい」と声をあげにくい社会になってはいるように思います。「正しい母を捨てて」と宣言する真船さんに、「私はお料理が苦手です」と話

な、温かい講演でした。(テレビ東京労組 宮崎明

ハラスメント事案の共有も

東北地連女性協定期大会

10月29日、東北地連女性協定期大会を開催した。新

型コロナウイルスを取り巻く環境も落ち着きを見せていることから、19年以來のリアル会場での実施が叶った。また、オンライン参加も可能とするハイブリッド開催とし、業務や家庭の都合に合わせてより多くの参加者を募ることができた。

各単組からは、会社側との労使交渉の結果や、女性に関わる社内状況について報告があった。今年は特に急激な物価上昇に伴う生活の変化に関する話題が多くあげられた。新型コロナウイルスの状況が落ち着いても、また

も生活を脅かす新たな問題が起こっていることに不安が多い中、今後も単組を越えて情報交換をしていこうという認識を再確認した。

また、若手・中堅社員が退社した、組合を脱退したりそもそも加入してもらえないといった報告も目立つ。組合員数の減少から、各単組の女性協も積極的な活動をする余裕がないという声も多数上がっており、お互い支えあう環境が必要であると感じている。

意見交換では、ハラスメントについて活発に意見が交わされた。マスメディアにはハラスメントがまだま

だ蔓延っており、告発をし

てももみ消されてしまうなど、会社側が真摯に

対応しない例も報告されてい

る。一方、パワハラに厳正な対

処をとったという情報も寄せら

れた。こういった問題こそ、成

功事例を中心に、情報と共有し、

各単組での活動や問題解決に繋

げようと思う。

定期大会を通じて深まった絆

を糧に、今後も女性一人一人がいきいきと働ける職場環境を目指し活動していきたい。

（東北地連女性協議会 議長 山内菜緒）



久しぶりのリアル参加も